

経営理念とカシオのCSR



経営理念

カシオのCSRとは、従業員が「カシオ創造憲章」とこれを具体化した「行動指針」を実践し、事業活動を通じて経営理念を実現することです。

まずCSRとは、日本では2003年頃から急速に広まった概念で、企業がステークホルダーに対し、経済・環境・社会のあらゆる側面から責任を果たすことである、と定義できます。

これに対し、カシオは1957年の創業以来、「創造 貢献」を不変の経営理念として、その実現に向けて努力してきました。この経営理念が意味するのは、“これまで世の中になかったものを創造することによって新たな価値を生み出し、人々の暮らしを豊かにすることを通じて社会に貢献する”というものです。すなわち、50年以上前の創業期から、“事業を通じた社会貢献”を明確にうたっていたわけです。

さらに2003年には、この経営理念を従業員が常に意識して実践するために、カシオで仕事を進める全ての人の誓いとして、「カシオ創造憲章 行動指針」を定めています。

この第1章では、“独創的な価値あるモノづくりと、それを実現するためのカシオ人の姿勢”を表しています。また第2章では、“事業を通じて社会に貢献し、あらゆるステークホルダーとともに発展すること”を、さらに第3章では、“カシオで仕事をする上で守るべき責任ある姿勢”を、それぞれ表しています。これをCSRの3つの側面(経済・環境・社会)と対比すると、下図のようにその要素を包含しています。

カシオ創造憲章 行動指針 —カシオで仕事を進める全ての人の誓い—	CSRの3側面			コンプライアンス
	経済	環境	社会	
第1章 私たちは、独創性を大切にし、普遍性のある必要を創造[※]します。 1. 全てに対し、“普遍性のある必要”を追究する 2. 全てに対し、“あるべき姿”を描く 3. 全てに対し、“挑戦する意志”を貫く	●			
第2章 私たちは、社会に役立ち、人々に喜びと感動を提供します。 1. 人々に、“無限の感動”を提供する 2. 人々と、“豊かな生活”をわかちあう 3. 人々と、“尊敬と信頼”の絆(きずな)を育む	●	●	●	
第3章 私たちは、プロフェッショナルとして、常に誠実で責任ある言動を貫きます。 1. 全ての言動に対し、“規則・法律に基づき”責任ある態度を貫く 2. 各々の役割に対し、“結果・成果”の責任を執る 3. 全ての仕事に対し、“毎日改善”に努める				●

※普遍性のある必要を創造
誰にとっても必要でありながら、まだ世の中になかったものを、新たに生み出すこと。これは製品開発のみならず、すべての業務においてカシオが追求すべきものです。

この「カシオ創造憲章 行動指針」については、役員および部門長は毎年署名し、順守することと所属員に周知徹底することを誓約しています。また、全従業員もこれを記載したカードに署名の上、常時携帯しています。

この他、「CASIO Style」と題して、経営理念や「カシオ創造憲章 行動指針」にまつわる創業者四兄弟の逸話や、例えを用いたわかりやすい話などを隔月のペースで社内Webサイト上に連載し、グループ全従業員への理解促進と定着を図っています。

さらに、2008年8月には、国内の全グループ会社の従業員を対象に、「カシオ創造憲章 行動指針」、「カシオグループ倫理行動規範」、「公益通報ホットライン」に関する総合的なアンケートを実施しました。それぞれの定着度合などを分析し今後の施策として反映すべく、課題の抽出を行いました。



CASIO Style画面

カシオの事業活動

カシオの事業活動は、それぞれの働きをもつ組織が発想力と技術力を駆使して新たな価値を創造し、次のプロセスへとつないでいく「0→1」のリレーによって成り立っています。それぞれのプロセスでの価値創造と環境・社会への取り組みをこれよりご紹介します。

